第41回

ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2026

地球と共生する膜技術

主催：一般社団法人　日本膜学会
共催：早稲田大学
（開催協力：一般社団法人　膜分離技術振興協会）

日 時

2026年
11月24日(火)～26日(木)

早稲田大学リサーチイノベーションセンター（121号館）会議室B1F
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町513
会場での参加の他、Web方式（Zoom）でも参加いただけます。

目的

膜技術は、化学、電気・電子、食品、医療、医薬、環境・エネルギー他、多岐にわたる分野においてその利用がグローバルレベルで拡大しています。膜を使った水処理技術は、機能の高度化と活用の範囲拡大が確実に進んでおり、また近年SDGsやカーボンニュートラルを背景に注目されている水素や二酸化炭素等気体分離膜の技術開発も、環境・新エネルギー分野での有効な活用に期待が高まっています。
本シンポジウムは、膜技術の開発・利用に携わる産学官の研究者・技術者を対象に、膜技術とその活用についての最新動向を理解し、今後の方向性を探るための情報交流を図る事を目的として開催します。

お申し込み

第41回 ニューメンブレンシンポジウム事務局
一般社団法人膜分離技術振興協会、ホームページ
http://www.amst.gr.jp/

対象

膜の研究・開発・製造に携わるメーカ、ユーザ・エンジニアリング会社の技術者・研究者、および地方自治体関係者、学識経験者など

参加料

	セッション数					
セッション数	1	2	3	4	5	6
膜学会、膜協会員	¥10,000	¥18,000	¥24,000	¥28,000	¥31,000	¥33,000
後援団体会員	¥11,000	¥20,000	¥27,000	¥32,000	¥36,000	¥39,000
官公庁、大学	¥3,000	¥5,500	¥7,000	¥8,500	¥9,500	¥10,000
その他	¥15,000	¥27,000	¥36,000	¥42,000	¥46,500	¥49,500

参加定員

会場での参加定員　各セッション50名
（Web方式に定員は設けておりません）

申し込み問合わせ

膜分離技術振興協会のホームページよりお申込みください。
http://www.amst.gr.jp/
膜分離技術振興協会に電子メールにてお問い合わせください。
nmts@amst.gr.jp

後援

特定非営利活動法人　JDA協会
公益財団法人 水道技術研究センター
一般社団法人 先端膜工学研究推進機構
日本液体清澄化技術工業会
日本海水学会
公益社団法人 日本下水道協会
一般社団法人 日本産業機械工業会
公益社団法人 日本水環境学会

追加調整中

【第41回】ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2026
講演内容

【セッション1】ナノ材料を活用した分離膜とその適用展開

11月24日（火）10:00～13:00

1. 二次元ナノ材料を用いたNF/RO膜の開発　　中川　敬三氏（神戸大学）
2. ナノセラミック膜の製造技術の確立と適用　　澤村　健一氏（イーセップ株式会社）
3. 医薬品製造工程に向けた正浸透膜・膜蒸留プロセスの開発と展開
   片山　雄治氏（旭化成株式会社）
4. RO膜ベンチャー「株式会社信水」の設立　　池田　大助氏（株式会社信水）

C　:中川　敬三（神戸大学）　　CC :川勝　孝博（栗田工業株式会社）

【セッション2】CO_2分離膜開発の最前線

11月24日（火）14:00～17:00

1. 機能性液体と膜の融合によるCO_2分離回収　　牧野　貴至氏（産業技術総合研究所）
2. 促進輸送に基づく高効率CO_2分離回収
   ― 膜材料設計から中空糸膜モジュール開発、実証試験へ
   谷口　育雄氏（京都工芸繊維大学）
3. ナノスペースを利用した超高透過性CO_2分離膜の開発
   川上　浩良氏（東京都立大学）
4. 大気からの直接的CO_2回収(DAC)に向けた気体分離膜の開発
   藤川　茂紀氏（九州大学）

C　:神尾　英治（神戸大学）　　CC :佳山　祐造（旭化成株式会社）

【セッション3】メンブレンリアクターの実用展開と可能性

11月25日（水）10:00～13:00

1. オルガノシリカ膜の設計・開発とメンブレンリアクターへの展開
   長澤　寛規氏（広島大学）
2. NGKにおけるメンブレンリアクターの開発状況と今後の展望
   間所　寛氏（NGK株式会社）
3. CCU向けメンブレンリアクターと周辺技術の最新動向
   松方　正彦氏（早稲田大学）

C　: 松方　正彦（早稲田大学）　　CC : 長澤　寛規（広島大学）

C：セッションコーディネータ　CC：セッションコ・コーディネータ（敬称略）
※プログラム内容（テーマ・スピーカ等）は変更になる場合がありますので予めご了承ください。

【第41回】ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2026
講演内容

【セッション4】循環型社会の構築に貢献する膜技術
11月25日（水）14:00～17:00

1. 再生水の海外動向や循環型社会における水再利用の意義
　竹内　悠氏（京都大学）
2. 中山間部における分散型水循環システムの実証研究（AB-Cross）
　山口　豊氏（ゼオライト株式会社）
3. 再生RO膜の国際標準化と適用事例　池辺　弘昭氏（造水促進センター）
4. 半導体排水回収への高濁度水の外圧全量ろ過技術の展開
　井上　一真氏（株式会社クラレ）

C　:大熊　那夫紀（造水促進センター）　CC :小林　真澄（三菱ケミカル株式会社）

【セッション5】浄水膜ろ過のこれまでとこれから
～導入・更新・災害対応、そしてウイルス阻止の科学へ～
11月26日（木）10:00～13:00

1. 浄水処理における膜ろ過技術の適用と今後の展開
　安藤　茂氏（給水工事技術振興財団）
2. 丹波市和田浄水場／膜種の更新事例紹介（有機膜から無機膜へ）
　柴田　幹哉氏（メタウォーター株式会社）
3. 災害時における膜処理の有効性について　山岸　貴行氏（水道機工株式会社）
4. 膜ろ過におけるウイルス阻止を細孔スケールから考える
　― 細孔内輸送・相互作用と膜構造・運転　橋本　崇史氏（東京大学）

C　:山村　寛（中央大学）　CC :川瀬　優治（メタウォーター株式会社）

【セッション6】膜を活用する下排水処理技術の最前線
11月26日（木）14:00～17:00

1. キーノートスピーチ　木村　克輝氏（北海道大学）
2. 米国におけるMBRを用いた大規模処理場の再構築事例
　久下　浩生氏（Kubota Water and Environment USA Corporation）
3. MABRの海外事例　Neil Hu氏（Veolia Water Technologies & Solutions）

C　:木村　克輝（北海道大学）　CC :糸川　浩紀（日本下水道事業団）

C：セッションコーディネータ　CC：セッションコ・コーディネータ（敬称略）
※プログラム内容（テーマ・スピーカ等）は変更になる場合がありますので予めご了承ください。